

ゆったり燕岳

2019 年 8 月 17 日（土）・18 日（日） 柏村×2、た、菅野、菊地

燕岳に行きたい、燕山荘に泊まりたい。そんな想いのもと、行ったことない者達の珍道中。

前泊予定でいわきを発ち、長野県池田町に着いたが、予定の宿を誰も予約しておらず、いきなりの宿泊難民。塩尻市の健康センターにもぐり込み、温泉に浸かってひと安心。明日の山行は如何に。

8 月 17 日朝、安曇野市のタクシー会社に車を預け、中房温泉までタクシー移動。登山口は、何かのイベントかと思うほどの混雑ぶり。東北の山と異なりファッショナブルな若者が多い。

登山を開始し、第一ベンチから第三ベンチ、富士見ベンチとずっと樹林の中を登っていく。各ベンチは 1 時間弱の歩行区間ごとの休憩目安で、非常に親切な配置。よく整備されている。他の登山者に道を譲りながら、ゆっくりペースで進む。

合戦小屋に着くと、名物スイカを注文。美味しいスイカに持参の特製塩を振ったメンバーはこのほか甘いとのこと。名物のうどんも食して、十二分な休憩をとった。

登りを再開すると、林の樹高が段々低くなっていき、頭上が開ける。仰ぎ見ると燕山荘は、そびえる岩上に建つ砦のようだ。気持ちも高まる。合戦尾根を登りきり燕山荘に着くと、カフェのケーキ・セットで休息。山頂なのに街中の喫茶店のようにくつろげる。

夕食前に、イルカ岩やメガネ岩で記念撮影しながら燕岳まで散歩。北アルプスの女王燕岳の頂からは、北アルプスの峰々がぐるり。先端が雲に隠れがち槍ヶ岳を横目に戻る途中、猿の群れを発見。小屋に着く頃には、昇ってきたガスが燕岳にかかり、安曇野方面は一面雲海。傾きかけた太陽に照らされ、眼下の雲海に影が映ると、その周りを虹が囲む。ブロッケン現象だ。はしゃぎながら手を振り、虹をまとうのが自分の影であることを確認。

小屋の中でビールを片手に夕食までのひとときを過ごす。ハンバーグなど主菜にご飯やみそ汁、デザートまでついた手作り感のある夕食。小屋オーナーの歓迎ホルンのほか、山の話などにも耳を傾けた。

就寝は、繁忙期のために布団 3 つに 5 人で寝る状態。小屋全体で宿泊客も多かったために、涼しい高所とはいえ暑い夜だった。

翌朝 17 日、は空気が澄んで、非常に良い天気。くっきりした槍ヶ岳の上空に月、振り返れば朝日が雲から昇る。ちょっと幻想的。遠くは立山方面、劔岳から裏銀座の峰々、蝶ヶ岳までくっきりと清々しい。小屋の朝食は焼き鮭、卵焼きといった旅館定番といった感じ。朝の散策の後、下山直前にヘリコプターによる荷揚げを見た。運んできた荷を切り離すと風の影響を受けにくい谷底へ降下してゆく様子はスリルがあった。下山途中に合戦小屋で、またスイカを食べた。ゆっくりペースの食べてばかりの山行だ。下山後は中房温泉で入浴。預けた車を回収後、上信越道安曇野 IC から帰路。夕方にはいわき着。

コースタイム

8月17日

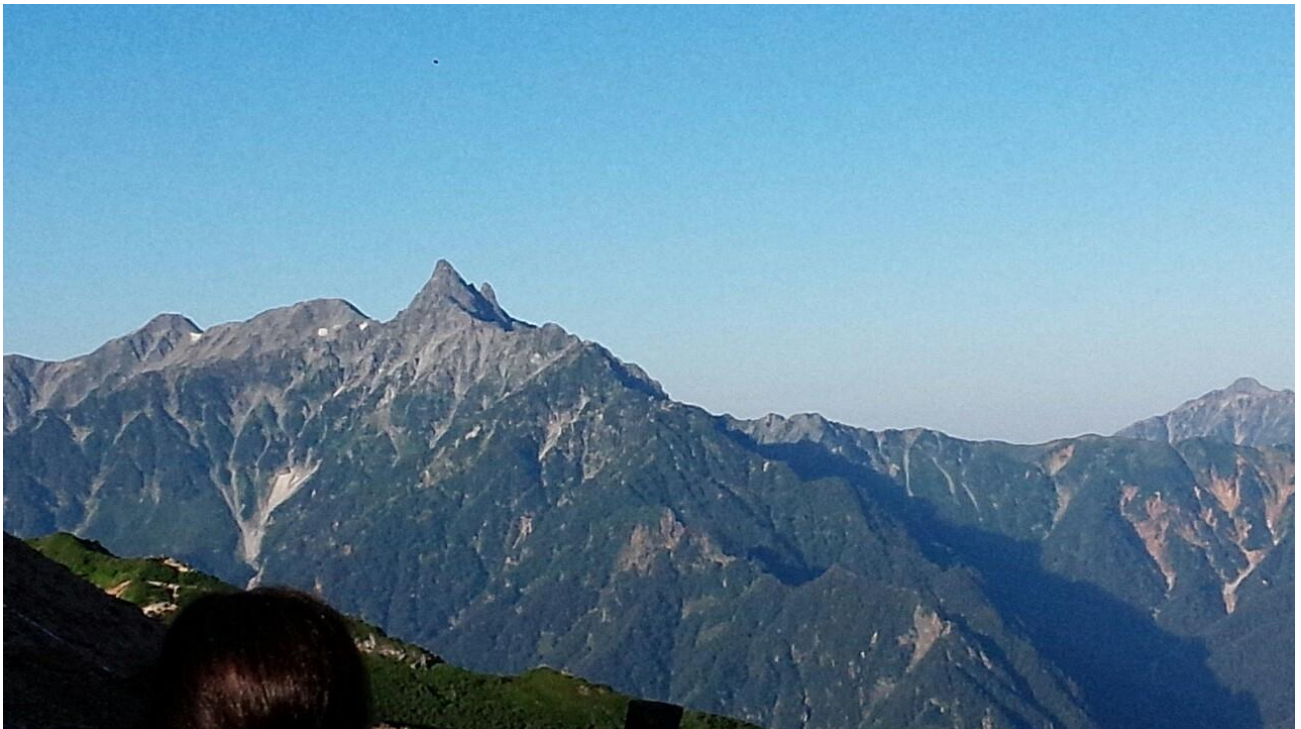
6:30 中房温泉登山口→7:20 第一ベンチ（水場入口）→8:00 第二ベンチ→8:40 第三ベンチ→9:30 富士見ベンチ→10:10 合戦小屋→12:20 燕山荘

13:40 燕山荘→14:00 イルカ岩→14:20 メガネ岩→14:40 燕岳山頂→15:30 燕山荘

8月18日

7:40 燕山荘→12:50 中房温泉登山口

（文責：太）



吾妻山周遊（9 月期石城登山教室）

2019 年 9 月 14 日（土）～15 日（日）

山行参加メンバー10 名（教室 3 名、会員 7 名）

石城登山教室の 9 月実技山行は、吾妻周遊で早朝 6 時 05 分に水石トンネル駐車場を出発。天気は、いつも通り快晴！当初予定は、兎平からの吾妻周遊でしたが、グランデコからのリフトが点検の為休止等あり今回は、白布温泉から天元台ロープウェイを乗り継いで北望台への「西吾妻最短コース」をゆくラクチン登山となりました。駐車場からバスでリフト乗り場へ移動してリフトを乗り継ぎ、登山口へ。ハイマツの広がりとおオシラビソの樹林帯の中をもくもくと歩くこと 40 分。そこには樹林帯が開けて展望の良い岩場が現れました。この人形石からは、広大な池塘群が点在しているのを眺めることが出来、その中に何処までも延びた木道が続く光景は、会津駒ヶ岳、尾瀬ヶ原にも決して負けないくらいで、福島県の山にもまだこんな素敵な場所があったんだ！としばし感激！！木道沿いにはミヤマリンドウが、びっしりと咲いて私たちを迎えてくれて、草紅葉も徐々に始まっていました。三連休の初日ではありましたが、この時期としては、すれ違う登山者も少なく木道も貸し切り状態でこんな光景をほぼ独り占めは、ぜいたくすぎるほど。感謝！感謝！です。（おそらく浄土平の入山規制やグランデコからのリフト休止等の影響があったのかも）とはいえ、弥平衛平小屋への到着予定が早すぎると、各自持参のアルコールが足りなくなってしまう危険があるので、しばし時間調整のため東大巔へ足を延ばし頂上へ。それでも 15:00 小屋へ到着。1 階は、すでに数組が入っていたので 2 階へ。我々だけで貸し切り状態となりました。ただし、2 階への梯子は、直登になっていて、山ではベテランの K さんですが、前回の山小屋では酔って落ちたのでちょっと心配です。夕食準備のため、水汲み班と調理班とに分かれましたが、水汲み班が近くの水場からなかなか戻らず、あわや遭難！かと思いながら待つ調理班のお酒のお試しが増えた頃、無事に戻ってきました。その後、S さん K さんのランタンの元、長い夕餉に入り、飯館のどぶろく他、特製梅酒等々で大盛況となりました。

いつも通り、手抜きで

美味しい A 校長と米沢牛 A5 ランク？を使った N さんの料理を堪能して皆それぞれの「山愛」を語りながら夜は、更けてゆきました。（朝までランタン点灯で大助かり）



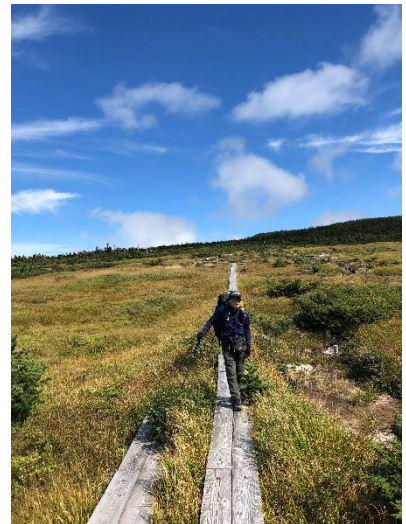
翌 15 日は予定より 45 分ほど早めの 5 時 15 分、日の出を迎えての出発となりました。昨夜は、中秋の名月でしたが、街のスーパーで売っていたススキや萩の花を、ここでは普通に目にすることが出来ました。さて、下りのルートは、B さんの希望に沿って西吾妻から若女平經由白布温泉への古くからの登山道です。昨日歩いてきたアルプスの草原状の湿原地帯の中、



木道を歩き人形石へ戻ります。ここで S リーダーとしばしお別れ。分岐から 20 分ほどで大凹の水場へ到着。下りの長丁場へ備えて水を補給するもののここでまたザックの重量が増えるのは、堪えそう。もう少し身体の水分を減らさ

なくてはと反省。やがてブロックを積んだような梵天岩へ到着。そこからの眺めは、西吾妻連峰西側のたおやかな山々を一望でき、中吾妻、東吾妻、前大巔、一切経、家形山、烏帽子山がゆったりと流れるようでした。個人的には半日、珈琲を沸かして飲む時間があったら最高なんだけど。

梵天岩から天狗岩、そして林の中に覆われた西吾妻山頂へ着き、岩城山岳会恒例の「万歳三唱」！！西吾妻小屋を経由して若女平までの足元は、苔が付いた岩と濡れた沢で足を取られ、全員悪戦苦闘。思った以上に時間を費やしBさんの希望を恨みそうでした。途中、途中に見かける登山道の道標「50/50」から「21/50」へと数字が減っていくことをひたすら期待して下山していききました。



冬の山スキーのコースを歩きたかったBさんの希望に沿って降りた若女平コースですが、積雪時のイメージが湧いたのでしょうか。冬場は、かなり危険箇所だそうです。若女平以降の下りは、沢からも離れオオシラビソ、ダケカンバ、ブナの樹林に代わり植林された杉林となって歩きやすくなり最後の橋を渡ると何連もの滝の「白布大滝」が私たちを出迎えてくれました。

すぐふもとの白布温泉に立ち寄り、少し熱めの湯で二日分の疲れを癒して、ここで福島支部のS会員とは、またの再会を楽しみに帰路に着きました。

今回の山行は、いままで行った教室山行の中でも格別なものとなりました。一緒に行けなかった教室の皆さんとは次回、素敵な花の時期にぜひまた訪れたいものです。今回は、ラインの写真で想像してくださいね。

コースタイム

9/14(土) 水石トンネル駐車場 6:05⇒磐越道⇒東北道⇒山形道⇒天元台ロープウェイ入口 8:55⇒北望台口(リフト上部) 9:50⇒人形石 10:45⇒藤十郎 11:50(昼食)⇒藤十郎分岐 12:10⇒東大巔 12:30⇒分岐 13:45⇒弥平衛平小屋到着 15:00(標高差 300m)

9/15(日) 弥平衛平小屋 5:15⇒藤十郎分岐 6:35⇒藤十郎⇒人形石 7:30(朝食)⇒大凹水場 8:20⇒梵天岩 8:57⇒天狗岩 9:08⇒西吾妻山 9:35⇒西吾妻小屋 9:45⇒若女平 12:00⇒若女平登山口 13:30⇒中尾別館不動閣(入浴) 14:40⇒水石トンネル駐車場 17:00(標高差 1200m)

(文責 赤塚)

沢登り研修会（指導委員会）

安達太良 夏無川（深堀沢）

8月25日（日） 平子、遠藤、芳賀、吉田（睦）、伊藤（健）、渋谷、渡辺（敏）その他5名

今年度の指導委員会沢登り研修会は、安達太良山の夏無川で実施した。天候が心配されたが、まずまずの天気で実施できた。奥岳の安達太良スキー場に集合して出発した。岳温泉から奥岳までの登山道があり、その一部をたどり入渓地点まで進んだ。夏無川の水量はさほど多くなく、沢の中心部を進んでも問題なさそうだ。しばらく進むと滑が現れ気持ちよく進める。途中二俣に出会い、流れの細い右俣を進む。さらに進むと流れが細くなるが、段になっている10m～20mほどの滝が現れる。手がかりがありフリーで登れそうだが初心者もいるのでロープを出す。2本のロープを張りみんながそれぞれのロープにブルージックで確保して登って行った。先行隊はロープの1本を撤去して先に進む。しばらく進むと8m程度の滝が現れる。滝の落ち口が狭く、その落ち口の岩がもろく、つかむ岩がすべて浮石となっていて厄介である。先行隊がロープを出して準備をしてくれていた。ロープを頼りに登り最後は流れを受けながらシャワークライミングで乗り越えてゆく。ロープが必要な滝は2か所のような。お昼を途中で食べてさらに進む



ナメ沢を進む

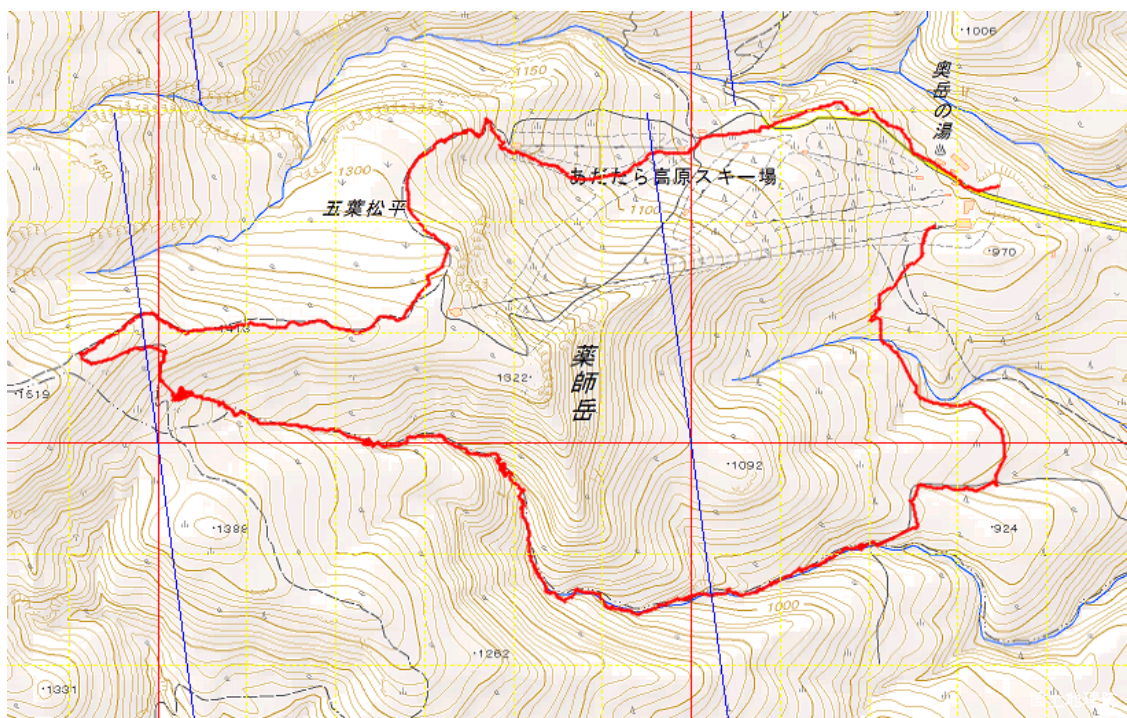
と、源流域となり流れがなくなる。先行隊は谷筋をそれて藪漕ぎをして登山道を目指したが、われわれは谷筋をたどり谷が終わりになって藪を数メートル進むと登山道に出た。ほどなく先行隊とも合流して、登山道をたどり奥岳スキー場の駐車場まで戻った。先行隊はゴンドラを利用して先に下山していた。登山道に出ると風が強く雲の流れが速く、変わりやすそうな天気であったが、まずまずの天気であった。コースタイム

奥岳スキー場 8:47→入渓地点 9:19～ 9:30→滝Ⅰ 10:23～10:30→滝Ⅱ 11:46～12:01→昼食 12:32～13:09→登山道 13:12→登山道合流点 13:26～13:29→休憩（靴替え）13:30～13:39→スキー場駐車場 14:50

文責：渡辺敏夫



最初の20m 滝



赤城山(黒檜山)・駒ヶ岳 周回

2019年9月14日(土) 太

上毛三山(赤城山、榛名山、妙義山)巡りの手始めに、赤城山の短い周回コースをソロで山行。

前日に、いわき市を出発し、北関東道の波志江スマートICを24時過ぎに出た。(ひとつ手前の伊勢崎ICではないのは、PAで休憩・買物して、高速夜間割引のため時間調整)。翌午前1時過ぎに赤城山の大沼(おの)湖畔に到着。登山口最寄り舗装、公衆トイレがある、おのこ駐車場にて車中泊。

午前6時30分に駐車場を出発、舗装路を10分ほど歩き、黒檜山登山口に到着。こちらの駐車場は、未舗装で平らな部分が少なく、トイレもない。

登山口から樹林の中をいきなりの急登だが、尾根まで鎖場など危険箇所はない。多少荒れた部分はあるも、よく整備された登山道。時折、眼下に大沼と赤城神社が見えたが、登るにつれて、うっすらガス。

山頂に着く頃もガスが晴れなかったので、少し先にあるという絶景ポイントには行かず下山を開始。快適な尾根歩きで鳥居のある神社(石の祠)の前に至る。ガイドブックでは御黒檜大神とのこと。鳥居の先からは急な下りとなり、樹木の中を木の階段が続く。傾斜が緩くなってくると、笹原も出て視界が開けてくる。目の前に霞んだ関東平野が遠く広がる。天気良ければ筑波山も見えとのことだが、霞んでいる。大ダルミを過ぎて登り返すと駒ヶ岳。平野と反対側に再び大沼が見えるようになる。赤城神社の社殿・神橋の赤が、湖面と周囲の緑によく映える。駒ヶ岳を過ぎると急激な下りになり、場所によっては手すりの付いた鉄製の階段が続く。階段が終わると折り返しの普通の登山道になり、傾斜が緩くなる頃には駒ヶ岳登山口に出る。舗装路を少しだけ歩くと、すぐに、おのこ駐車場。

駐車場を発車した後、赤城神社を参拝。翌日山行のため皇海山登山口に向かい、途中の南郷温泉しゃくなげの湯で入浴。隣接の直売所で、もち豚・赤城鶏など、夕食用の群馬特産品を購入した。

コースタイム

6:40 黒檜山登山口→7:50 尾根分岐→7:55 赤城山(黒檜山)山頂→8:05 鳥居(御黒檜大神)→8:30 大ダルミ→8:50 駒ヶ岳→9:30 駒ヶ岳登山口





皇海山・鋸山 皇海橋ルート

2019年9月15日（日） 太

皇海山を「すかいさん」と読める人は、地元の人か、百名山を知っている人くらいかもしれない。名前も山容もカッコいいので、行ってみたくなるが、昔からのルートは長く険しく困難。ソロでも、安全確実に日帰りするため、天候を見ながら沼田市の栗原川上流の皇海橋から登ってみた。

皇海橋は、国道 120 号線、吹割溪谷市営駐車場前の信号交差点から 21 キロ入った先、離合困難な栗原川林道の終点にある。（逆方向からのアクセス、栗原川根利林道は全面通行止めで通れない。）栗原川林道は、凹凸の激しい路面が続くうえ、落石による尖った岩が至る所に転がり、深い谷側にはガードレールがなく、「通行は自己責任」の案内版さえある、狭隘で、落石、転落、パンク注意の道である。

赤城山の周回を終え、そんな林道で皇海橋のたもとに到着したのが前日 14 日 14 時半過ぎ。来る途中にすれ違った車は 10 台以上だが、まだ橋周辺には 30 台ほど駐車していた。トイレは、橋の手前側、一段高い小屋の中。水洗だが、手洗い蛇口の水は飲めない。登山届ボックスは、トイレ前。

キャンプ道具を出して 4 時頃から焼肉で一杯やっていると、登山者が続々と下山、林道を帰っていく。一番遅いのは 18 時少し前の女性 2 人組で、あたりは薄暗くなっていた。

登山口での車中泊は全部で 3 台だったが、早朝には駐車台数が 7 台になっていた。午前 5 時半頃に車を離れ、登山道に向かう。登山道入口標柱、登山道案内図の先にある閉まったゲート過ぎて林道皇海支線を進むと、傍らに皇海山山頂入口の道標がある。ここから先が登山道らしい。

少し離れた沢に沿って樹林の中を登っていく。何度か沢を渡り、笹原を過ぎると、大きな石が積み重なった沢に出る。ここから先は細く急な沢を登っていく。もし、雨が降っていたらと考えると怖い。ロープを頼りに沢の頭を登り切って、傾斜が緩くなると皇海山と鋸山の鞍部、不動沢のコルに出る。ここからは、険しいピークが連続する鋸尾根が望める。その中でも、ひときわ尖って高く見えるのが鋸山だった。

まずは皇海山に向かう。樹林を抜け、笹原を通り、苔の林を抜け、大岩の脇を通り、高度を上げていく。傾斜が緩くなると皇海山の山頂だが、周りを樹木に囲まれ、眺望に乏しい。山頂を示す標柱を撮影し、鋸山を目指して引き返す。不動沢のコルを過ぎ、多少のアップダウンの後は、傾斜が急激に増し、尾根が細くなり、ロープのあるガレ場、岩場になる。ソロだから、何かあったら助からんな、と弱気になる。

登り切った鋸山の頂上には先客、若い男性 3 人が休憩中。聞けば、庚申山荘方面から登って、皇海山を越え、その先の幕営地まで行くのだという。彼らの会話を耳にすると、「鋸山は登る山で、皇海山は見

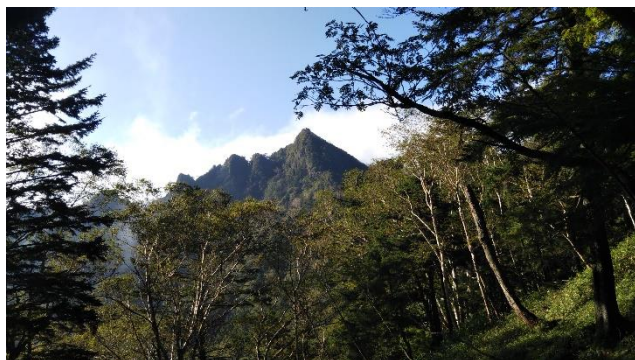
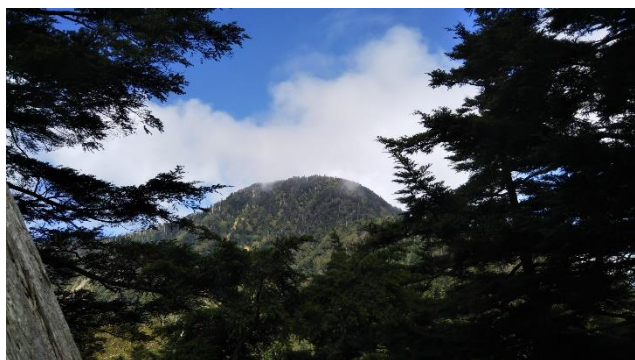
る山だよね」。なんとなく、同感。陰しくも、どっしりとした山容の皇海山は目の前にあった。

万が一、ガレ場で石を落とすといへんなので、先に下ろさせてもらい、不動沢のコルに戻る途中で彼らに道を譲る。コルからは沢へ慎重に下り、樹林を抜けて皇海橋まで戻った。

翌日の至仏山山行のため、再び緊張しながら栗原川林道を抜け、国道 120 線を尾瀬、片品村方面へと車を進めた。

コースタイム

5:40 登山口→7:30 不動沢のコル（分岐左折）→8:40 皇海山山頂→9:20 不動沢のコル（分岐直進）→10:20 鋸山山頂→11:10 不動沢のコル（分岐左折）→12:50 登山口



至仏山 周回

2019 年 9 月 16 日（日） 太

群馬県側から尾瀬に行ったことがないので、至仏山は鳩待峠を起点に周回してみた。

前日 15 日の皇海山山行を終え、16 時頃に片品村の駐車場に到着。途中、吹割溪谷遊歩道を巡り、東洋のナイアガラ？「吹割の滝」を楽しみ、食材調達は、村の国道 120 号沿い、消防署 900m 先のスタンドに隣接したスーパー。（山間地ながら意外に食料品が安く、オススメかも。）

尾瀬第一駐車場は、収容 280 台、機械式ゲートで 24 時間利用可。料金は、利用 24 時間まで 1,000 円。駐車場待合所内のトイレブースは、ザック置き場がある広いもので、便座もウォシュレットで快適。

キャンピングカーお断りとおったが、キャンプ用品を車外に出さなければ、たぶん大丈夫。（実際にキャンピングカーが駐車していた。）近接「尾瀬ぷらり館」で入浴（500 円）後、手早く食材を調理して

夕食、車中泊で翌日に備えた。

翌朝 16 日は、待合所内の自販機で、バス・乗合タクシー共通乗車券（980 円）を購入、午前 4 時 40 分の始発バスで出発。鳩待峠に着くと、さっそく尾瀬ヶ原方面に下りてゆく。ときおり階段になる、緩やかな木道を歩いて「山ノ鼻」に着くと、「研究見本園」（咲いていた花はトリカブトくらい）を半周し、登山口に向かった。

薄くガスのかかった登山道は、階段や木道、流紋岩の石も、濡れて滑りやすく、うっかり足が乗せられない。鎖場は、傾斜の緩い露岩だったが、ツルツルで、鎖の理由も納得できる。

至仏山山頂に着く頃に、風とともに小雨が降りだした。尾瀬ヶ原はまったく見えない。山頂標柱の写真だけ撮影し、雨衣とザックカバーを装着して稜線を下りていく。

小至仏へ登り返すときには、雨も止んだ。振り返ると、至仏の山頂がハッキリ見え、岩上から反対側を望むと、武尊山が遠く雲に浮ぶ。小至仏を下った先、草原のデッキで、湯を沸かして昼食を取る。あとは休まず、ひたすら下山。

鳩待峠に着くと、出発直前の乗合タクシーが最後の客を探していたので、これ幸いと靴も洗わず乗車し、尾瀬第一駐車場に戻った。「尾瀬ぶらり館」で入浴後、金精峠を越えた日光から帰路につく。

コースタイム

5：20 鳩待峠→6：20 山ノ鼻（ビジターセンター前）→同（研究見本園）→6：40 同（至仏山登山口）→9：40 至仏山山頂→10：40 小至仏山山頂→11：20 オヤマ沢田代→12：40 鳩待峠



『ヘッポコの穂高岳山荘～槍ヶ岳縦走記！』

2019.09 菅野靖司

一昨年の穂高槍ヶ岳縦走の残り行程を山友の案内で縦走して来ました。
台風の動向が気になる週でしたが、晴天に恵まれいい山行ができました。

9月4日（水）いわきから新穂高温泉まで移動、6時間半
平日ですが、登山者用駐車場は7割程度の車が入っていました。

9月5日（木）晴れ
新穂高温泉5時⇒白出沢出合7時⇒重太郎橋9時⇒荷継小屋後10時半⇒穂高岳山荘13時半
重太郎橋手前の山道で転倒し2m滑落。登山初めての滑落到ドキ！岩切り道をカラビナ掛けながら通過。
これからは、テン場確保の為ピッチを上げ登りましたが、途中、太もも内側広筋が吊り薬を摂取！それでも3名に抜かれた。超キツかった。テン場も確保出来、笠ヶ岳に沈む夕日みて就寝。

9月6日（金）晴れ
穂高山荘6時半⇒涸沢岳7時⇒涸沢最低コル8時⇒北穂高岳南峰9時半⇒
北穂高小屋10時⇒長谷川ピーク11時半⇒南岳小屋13時
涸沢岳から始まる下りを見た時、厳しい稜線を目の前にしてテン泊装備を悔みましたが、仕方ない。足元が良く見えない下りの連続は緊張で喉が渇く。北穂高小屋にて休憩を取り出発。飛騨泣きの難所は鎖、梯子がしっかり設置され助かりました。

9月7日（土）晴れ
南岳小屋5時半⇒南岳⇒中岳7時⇒大喰岳^{おおはみだけ}⇒槍ヶ岳山荘8時半 ⇒槍ヶ岳⇒槍ヶ岳山荘
南岳で御来光を見て出発！槍ヶ岳が徐々に大きく見えてくる感動はこのルートの醍醐味ですね。途中、韓国の登山者が長靴で登っていたのでビックリしました。少ないテン場にテントを張り、いざ槍ヶ岳へ。南アルプスの3座を残し、見渡せるアルプスの峰の殆どを登った自分にとって、最後の峰、槍ヶ岳より360度パノラマで回想する事ができました。
燕岳に登った頃は、こんな日を迎える何て想像もつかなかった！アルプ스에魅せられた自分を再発見しました。山友さんとのアルプス談義は終りを知らず、頂上で2時間のコーヒータイムをとなりました。同日に登られた皆さんお邪魔致しました。

9月8日（日）晴れ
槍ヶ岳山荘6時⇒千丈乗越7時⇒槍平小屋9時半⇒白出沢出合11時半
⇒新穂高温泉12時半
槍ヶ岳に別れを惜しむ様に西鎌尾根を下り後にしました。穂高平小屋のかき氷が
とても美味しそうでしたが、混んでいたの見学のみとしました。
今回の温泉は奥飛騨薬師の湯本陣にて入浴、いい露天風呂でした。

このルートは、多くの鎖、梯子の設置により縦走できました。管理をされている関係者の皆様方に感謝致します。これからもよろしくお願いします。5t鎖は重過ぎます。

